

平成26年度補正
ものづくり・商業・サービス
革新補助金

【対象類型】

革新的サービス【一般型】
試作開発＋設備投資

07

事業名

自動販売機による新しい広告媒体
「フリーポン」のクラウド連携機能
構築による顧客価値向上

株式会社
オートスナック



〒322-0527
栃木県鹿沼市塩山町806-2
TEL 0289-75-4088
FAX 0289-75-4747
URL: <http://www.autosnack.jp/>
E-mail: mishina@autosnack.jp

- 代表者名／三品浩文
- 設立年／1973年
- 資本金額／1,000万円
- 従業員数／5名
- 事業内容／自動販売機による飲料の小売業

まちなかの自動販売機を新たな広告媒体に。
フィールドテストでシステムの精度を高める



フリーポン端末の表示画面。アニメーションが目を引く

新しい広告媒体「ご当地自販機フリーポン」

当社は1973年（昭和48年）の創業以来、清涼飲料水の自動販売機（以下、自販機）による無人販売に特化し、自販機の設置とフルオペレーション（商品の配送・補充、売上回収、空き容器の回収等）を提供してきました。

現在、市場への自販機設置はほぼ飽和状態で、また、コンビニエンスストアの台頭で自販機自体の需要が縮小し、1台当たりの売上額及び収益率は著しく低下しています。

そうした中で当社は、清涼飲料水を提供するだけの自販機に、地域情報や広告等を印字したサービス優待券（クーポン券）を発券する機能を追加した「フリーポン端末」を独自に開発しました。

まちの駅 新・鹿沼宿に設置された自販機。このほか道の駅しもつけ、道の駅きつねがわ、ろまんちっく村などで導入が進んでいる





広告主（クーポンサービス提供者）にも商品購入者にもメリットのある画期的なサービスは、いつでも、どこでも、だれでも利用できるユビキタス的な特性を活かした新しい広告媒体です。2011年（平成23年）、協力会社及び鹿沼商工会議所との連携で「ご当地自販機フリーボン」として試験的運用を開始しました。

フリーボン事業の確立と生産性の向上を目指す

平成25年度のものづくり補助事業を「サービスインフラ開発フェーズ」と捉え、フリーボン端末と制御システムの開発、ネットワークによる集中管理システムの開発を行いました。

それを受けて平成26年度のものづくり補助事業を「サービスモデル構築フェーズ」と捉え、クラウドを用いた連携機能の構築を図りました。紙のクーポンの弱みを補い、強みを活かし、さらなる顧客価値の向上とサービス運営の効率を高めるため、①フリーボンサービスサイト連携機能の開発、②フリーボン端末情報発信機能の拡張、③クーポン利用状況データベース機能の開発、④システム及び機能評価テストの実施に取り組みました。



クーポン券は券面に記載されたサービスだけでなく、すべての提携店で共通割引券として利用でき、1枚で最大200円までのサービスが受けられる

実用に耐え得るシステムを目指して

特に④においては、宇都宮市・鹿沼市及びその周辺に点在する自社自販機50台にフリーボン端末を設置し、それらを集中管理システムに接続して通信状況、通信時間・通信量、クラウドサーバーの負荷状況、通信が集中した際の影響、設置環境の違いによる影響等の確認を行いました。

また、自販機ごとのクーポンの発券状況、利用者によるフリーボン端末の操作状況、クーポン利用状況、各種アンケート結果、システムの状況、サービスサイトのアクセス状況等を分析し、システムの改良・修正を行いました。

検証の結果、端末の利用状況・設置環境・操作状況を含めた実用に耐え得るシステムに必要な情報の収集ができ、また、システムリソース（ネットワークの帯域、クラウド上のサーバーの性能・容量）においては必要なシステムコストの積算精度を高めることができました。



クラウド化によりパソコン上で自販機の運用状況が把握できる

FUTURE ➡

将来の展望

株式会社 オートスナック

代表取締役 三品 浩文

本事業の活用でフリーボン端末やシステムの開発、クラウド連携機能による顧客サービスの向上を図ることができました。今後は情報をタイムリーに提供して利用者のリピート率を高めるために、魅力的なコンテンツ制作もテーマの一つです。例えば、地域情報の発信手法を検討したり、動画など新たなメディアを取り入れるのも一考です。将来的には東京を始め大都市圏でのフリーボン端末の投入を視野に、自販機に特化した事業をさらに推し進めます。